官

四年

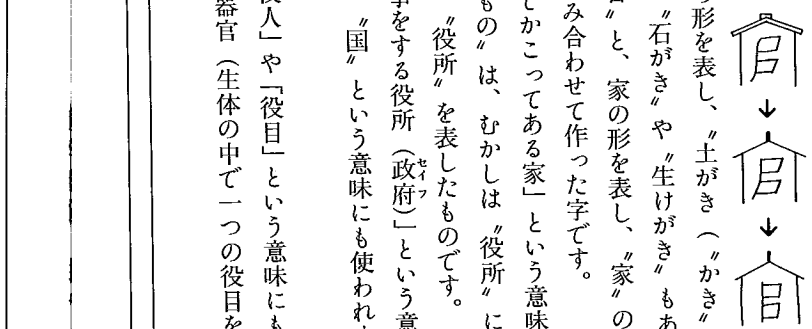
画数 8

筆順 宀 宀 官

オン カン

クン

成り立ち



〝がけ〟の形を表し、〝土がき（〝かき〟は家の〝かこい〟のこと。〝石がき〟や〝生けがき〟もある）〟の意味を表した〝宀〟と、家の形を表し、〝家〟の意味を表した〝宀〟とを組み合わせて作った字です。

「土がきでかこってある家」という意味の字で、そういう〝たてもの〟は、むかしは〝役所〟にかぎられていましたので、〝役所〟を表したものです。

「国の仕事をする役所（政府）」という意味に使われるところから、〝国〟という意味にも使われます。例官庁、官吏、官営。

また、「役人」や「役目」という意味にも使います。例長官、高官、器官（生体の中で一つの役目をもった組織）。

使い方

▽この土地に、近く、官庁が移転して来るそうです。そうなれば、いろいろな手続きをするのに、便利になるでしょう。

▽心臓は、内臓の中でも、特に大切な器官です。

熟語例

▽官庁（役所。国の仕事をする所）

▽官吏（役人。国の仕事をする人。今は公務員といいます。）

▽官営（国で経営していること。この言葉は、むかしの使い方で、今はあまりつかわれません「ぼくのじいちゃんは、むかし、官営の紡績工場で働いていたそうです」などというふうに、つかいます。）

▽長官（官庁の長。その役所で、一番、位の高い人）

▽高官（高い位についている役人。「大蔵省の、さる高官の話では、近く税制が改変されるそうだ」などというふうに、つかいます。）

▽器官（生物の体の中で、ある一定の役目をもつ組織。胃や肺、また、茎や根など）

管

四年

画数 14

筆順 竹 笒 管

オン カン

クン くだ

成り立ち

〝貫く〟という意味の〝貫（慣 5年 677）〟と同じ音なので、その意味をかりた〝官〟と、〝竹（1年 59）〟とを組み合わせて作った字です。

「竹のふしを貫いて作った〝くだ〟」を表した字で、〝竹ぶえ〟のことを表したものです。例管楽器。

「竹のくだ」にかぎらず、広く〝くだ〟の意味に使います。例血管、気管、土管、鉄管。

また、〝官（4年 472）〟の「つかさ（役所のこと）」という意味の使い方にたいして、「つかさどる（役所の仕事としてとり行うこと）」という意味に使います。例管理、管轄、保管（保護管理）、管制（管理統制）。

使い方

▽尺八やフルートのような管楽器は、もとは、竹や草木の管を鳴らしてみたことから、これを楽器にしようと思いついたのでしょう。

▽うちの水道管は、古くなって、ときどき、へんな音をたてます。

熟語例

▽管楽器（管の口から息を吹き込んで鳴らす楽器。尺八やフルートのほかにも、ホルンやトランペットなど、いろいろあります。）

▽血管（体の中を流れる血が通る管。「脈どころで、血管がドキドキ脈打っている」などというふうに、つかいます。）

▽気管（呼吸する空気の通る管）

▽土管（土で作った管。下水などを流すのに、つかいます。）

▽鉄管（鉄で作った管）

▽管理（仕事を順序正しく取り扱うこと。業務などをつかさどること。「財産を管理するのは、たいへんだ」などというふうに、つかいます。）